

あ、ここにも。

【証券コード:7213】
東証2部 名証2部

LECIP



レシップ株式会社

2008年 3月期 決算説明会

2008年 6月 3日

▶ 1. 事業セグメントの内容について

2. 2008年3月期 業績概要

3. 重点課題・事業戦略の進捗状況

4. 2009年3月期 業績見通し

▶ **輸送機器事業**

▶ **S & D(サイン&ディスプレイ)事業**

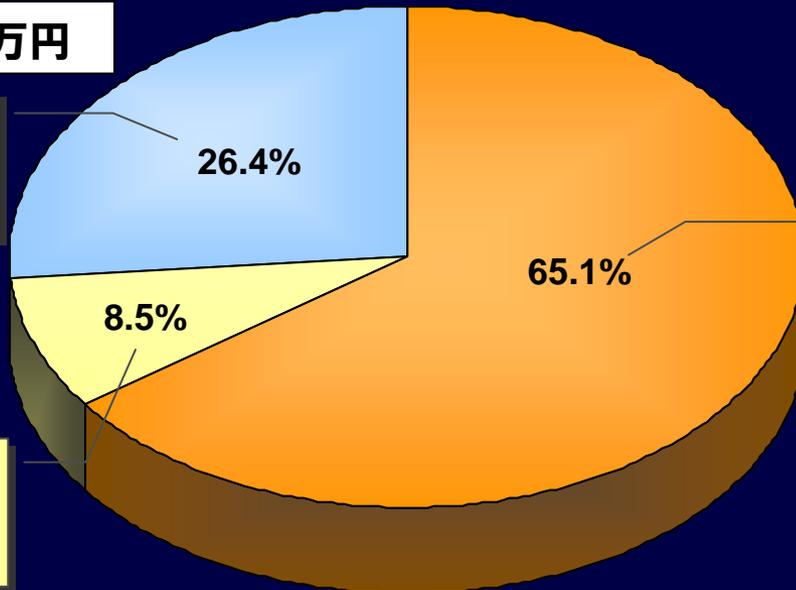
▶ **産業機器事業**

【ご参考】08年3月期 通期の事業セグメント別売上高

連結売上高:18,511百万円

【産業機器事業】
充電器、無停電電源装置、
物販共用読み取り端末、
プリント基板実装

【S&D事業】
ネオン変圧器、
屋外用電子安定器、
点滅調光コントローラ



■ 輸送機器
■ S & D
■ 産業機器

【輸送機器事業】
バス・鉄道用運賃箱、
カードシステム、表示機器、
車載用蛍光灯具

▶ 輸送機器事業

● バス市場向け製品



バス用運賃箱

ICカードリーダー

液晶表示器
(OBC VISION)

デジタル
運賃表示器

LED式行先表示器

- 国内唯一のバス用電装機器トータルサプライヤー
- 当社の主力製品、多くの製品でトップシェアを獲得
- 拡大続く、バス用ICカードシステム
 - ☑ 首都圏をはじめ、全国のバス会社様へ拡販中

● 鉄道市場向け製品



ワンマン鉄道用
運賃箱

車内設置型ICカードシステム

車両用蛍光灯具

- バス搭載機器の技術を応用した鉄道市場向け製品群
- ワンマン鉄道用システム機器で、トップシェアを獲得
- 国内で初めて、車内設置型非接触ICカード運賃精算システムを製品化

● 自動車市場向け製品



自動車用蛍光灯具

平面放電灯

冷陰極放電灯

- 自動車用蛍光灯具のパイオニア
- メーカー純正向け蛍光灯、市販向け蛍光灯で
トップシェアを獲得
- 環境への対応、機能面充実(薄型化)による差別化

1. 事業セグメントの内容について

▶ 2. 2008年3月期 業績概要

3. 重点課題・事業戦略の進捗状況

4. 2009年3月期 業績見通し

連結業績のポイント

前期比:増収  増益 

▶ 売上高:4期連続の増収

過去最高更新

▶ 利益:2期連続の増益

過去最高更新

プラス要因

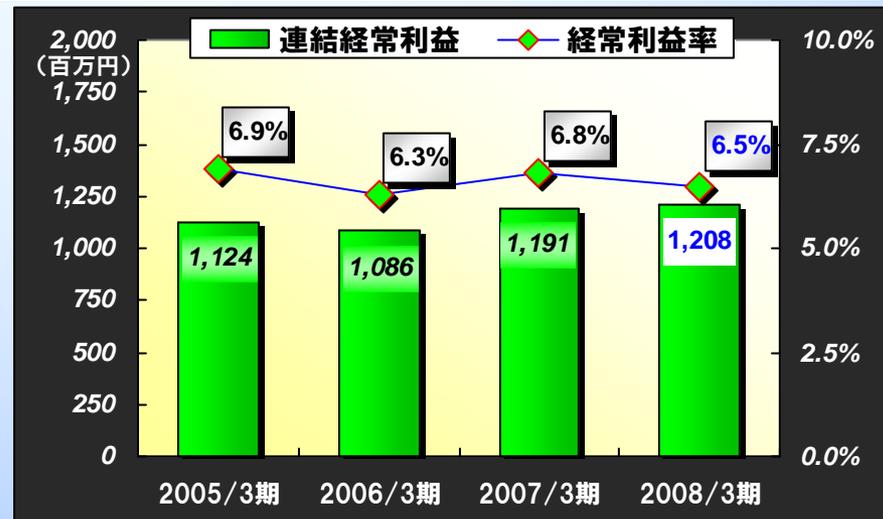
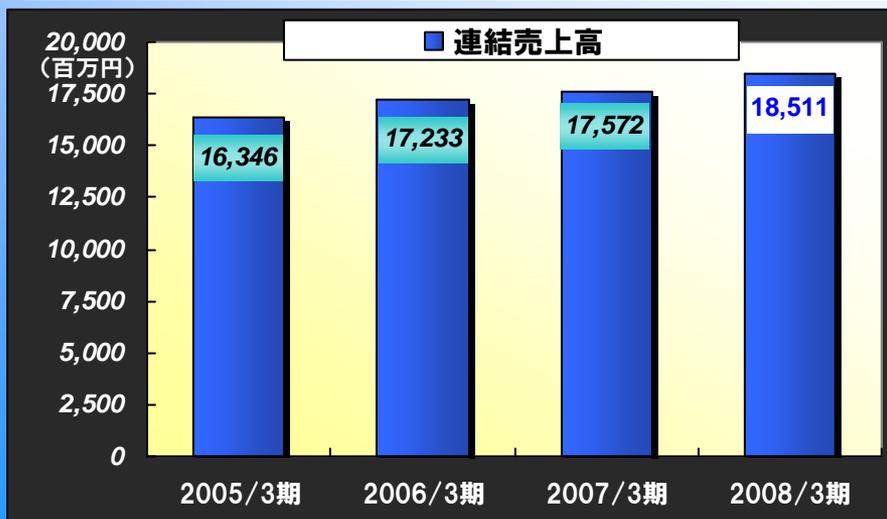
- バス用ICカードシステムが大きく拡大
- 物販共用読み取り端末も好調に推移

マイナス要因

- 銅価格の高止まり、タイ国通貨パーツの高騰
※S&D事業・ネオン変圧器の生産をタイで行っていることから、パーツ高騰が利益を圧迫する要因となる。
- 連結子会社レシップ電子のプリント基板実装、小型液晶パネル組立て生産が減少
- 税制改正に伴う減価償却費負担増、上場関連費用の計上

2008年3月期 連結業績ハイライト

【連結】 通期業績 概要	2007年3月期 通期		2008年3月期 通期					
	①前期実績 (百万円)	構成比 (%)	②業績予想 (百万円)	構成比 (%)	③当期実績 (百万円)	構成比 (%)	前期比 増減額 ③-① (百万円)	前期比 増減率 (%)
売上高	17,572	100.0	17,770	100.0	18,511	100.0	+939	+5.3
売上総利益	4,313	24.5	—	—	4,600	24.9	+286	+6.6
営業利益	1,189	6.8	1,200	6.8	1,232	6.7	+43	+3.7
経常利益	1,191	6.8	1,190	6.7	1,208	6.5	+16	+1.4
当期純利益	668	3.8	690	3.9	686	3.7	+17	+2.6

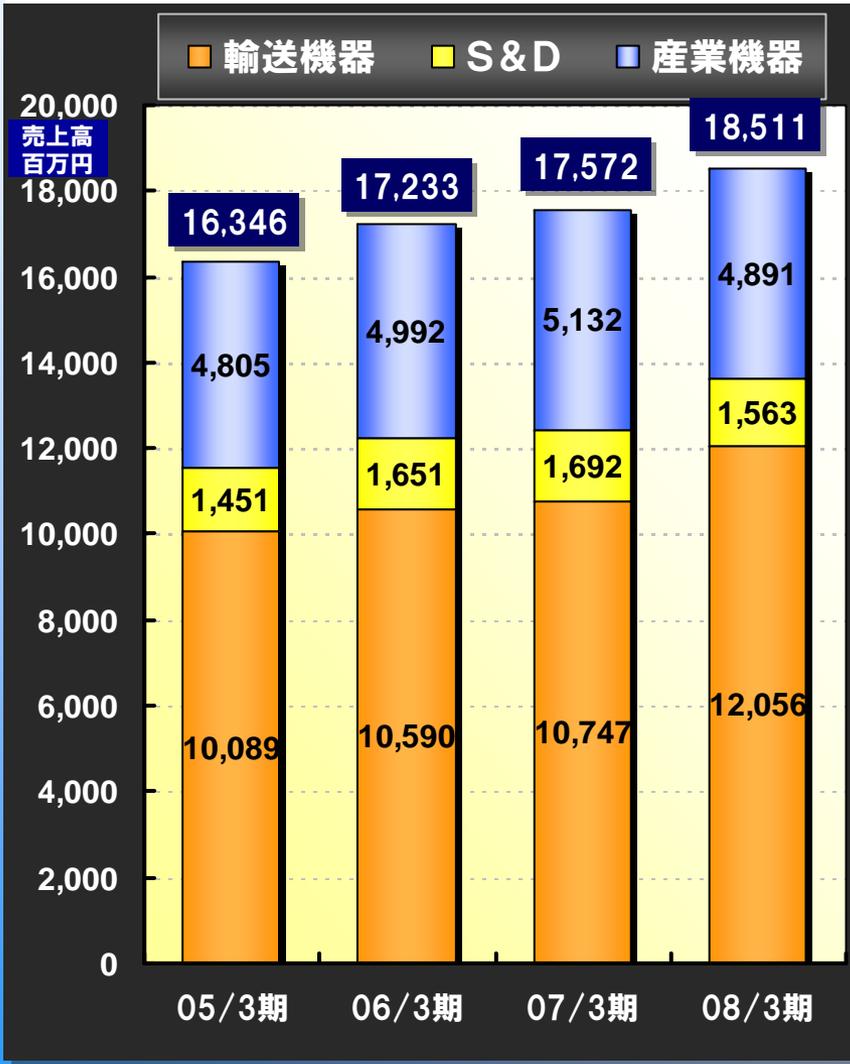


2008年3月期 セグメント別業績

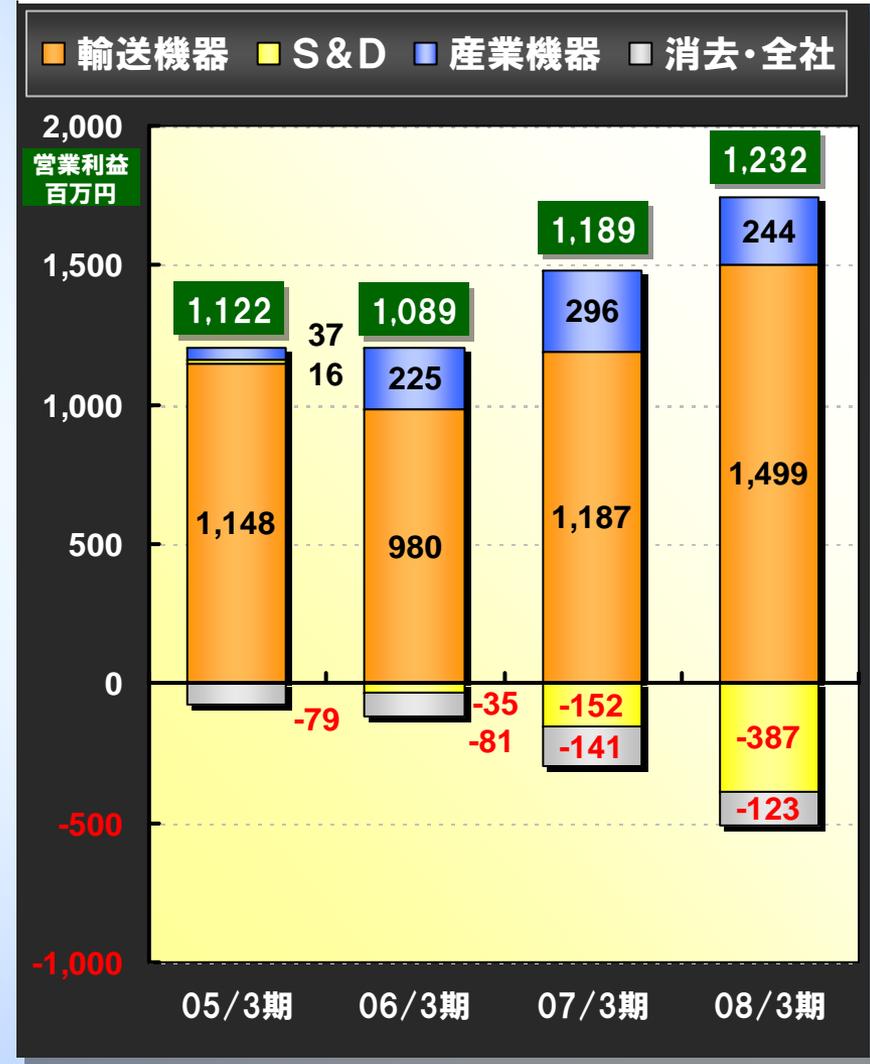
【売上高】	2007年3月期		2008年3月期			
	前期実績 (百万円)	構成比 (%)	当期実績 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
輸送機器事業	10,747	61.2	12,056	65.1	+1,309	+12.2
S&D事業	1,692	9.6	1,563	8.5	▲129	▲7.6
産業機器事業	5,132	29.2	4,891	26.4	▲240	▲4.7
連結	17,572	100.0	18,511	100.0	+939	+5.3

【営業利益】	2007年3月期		2008年3月期			
	前期実績 (百万円)	構成比 (%)	当期実績 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
輸送機器事業	1,187	89.2	1,499	110.6	+312	+26.3
S&D事業	▲152	▲11.5	▲387	▲28.6	▲235	-
産業機器事業	296	22.3	244	18.0	▲52	▲17.6
計	1,331	100.0	1,356	100.0	+24	+1.9
消去・全社	(141)	-	(123)	-	▲18	▲13.3
連結	1,189	-	1,232	-	+43	+3.7

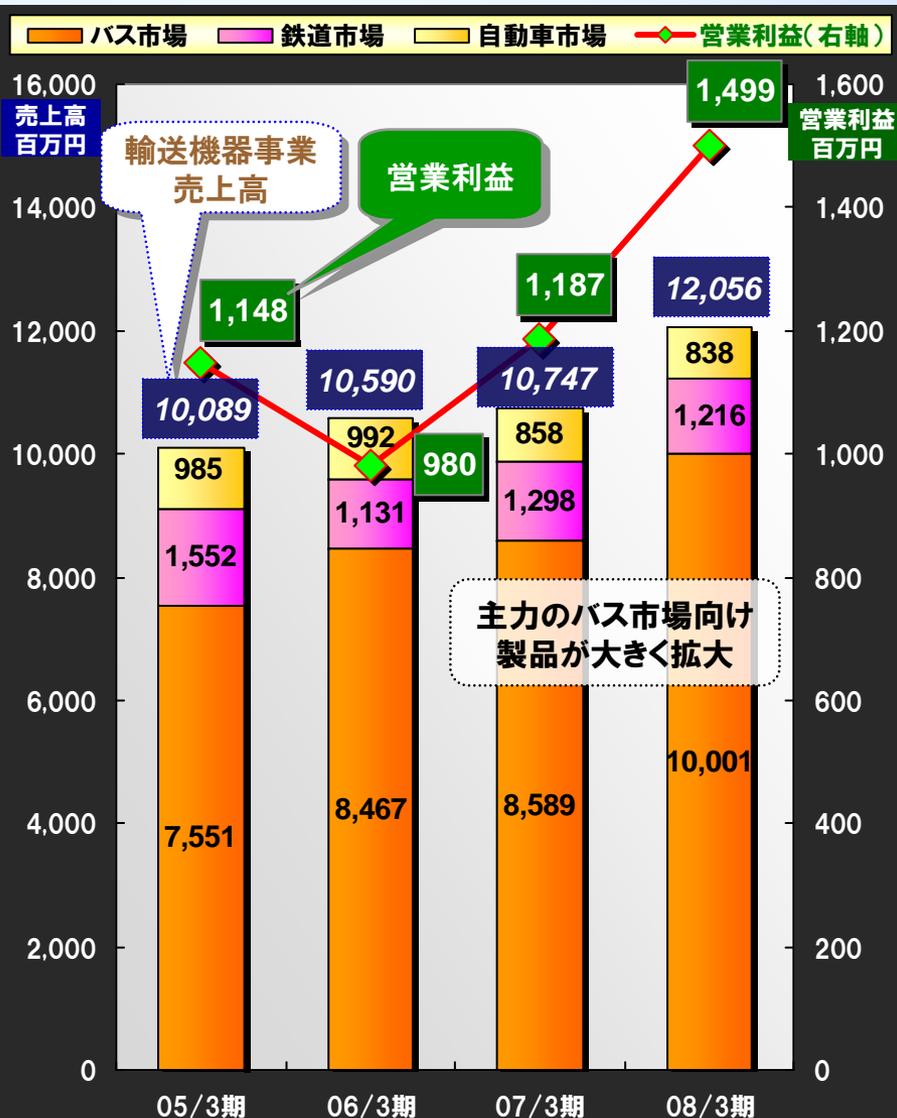
セグメント別売上高の推移



セグメント別営業利益の推移



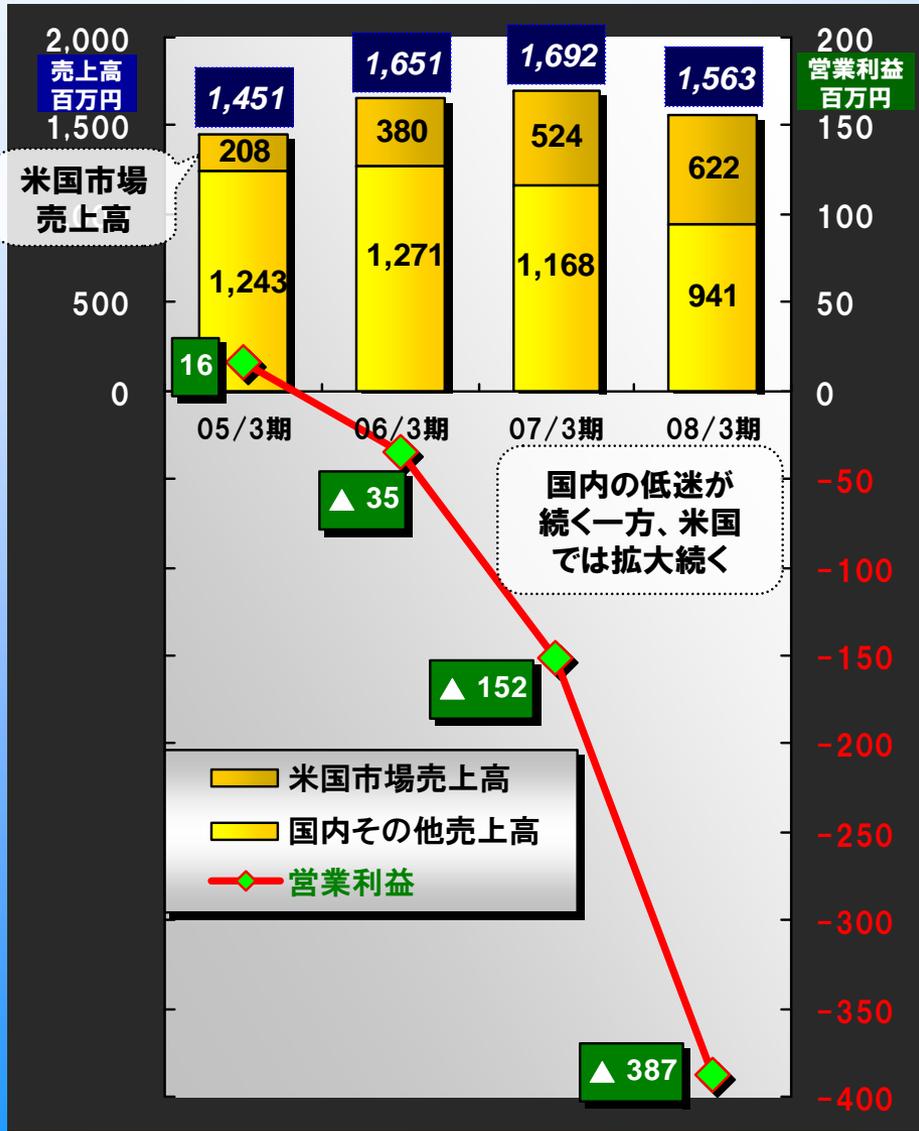
輸送機器事業:売上高・営業利益の推移



■ 売上高 : 前期比 ▲ +13億09百万円 +12.2%
■ 営業利益: 前期比 ▲ + 3億12百万円 +26.3%

バス市場 製品売上高	+14億11百万円 (+16.4%)	▶ バス用ICカードシステム の大幅増 
鉄道市場 製品売上高	▲82百万円 (▲6.3%)	▶ 列車用蛍光灯具、 鉄道用ワンマン機器の減少 
自動車市場 製品売上高	▲19百万円 (▲2.3%)	▶ 排ガス規制強化に伴う トラック買替え需要一巡 によりトラック用蛍光灯減少 

S&D事業:売上高・営業利益の推移



■ 売上高 : 前期比 ▲1億29百万円 ▲7.6%
■ 営業利益: 前期比 ▲2億35百万円 —



▶ 巻線式ネオン変圧器・充電器の主要部材として銅を使用
銅価格の高止まりが、利益を圧迫

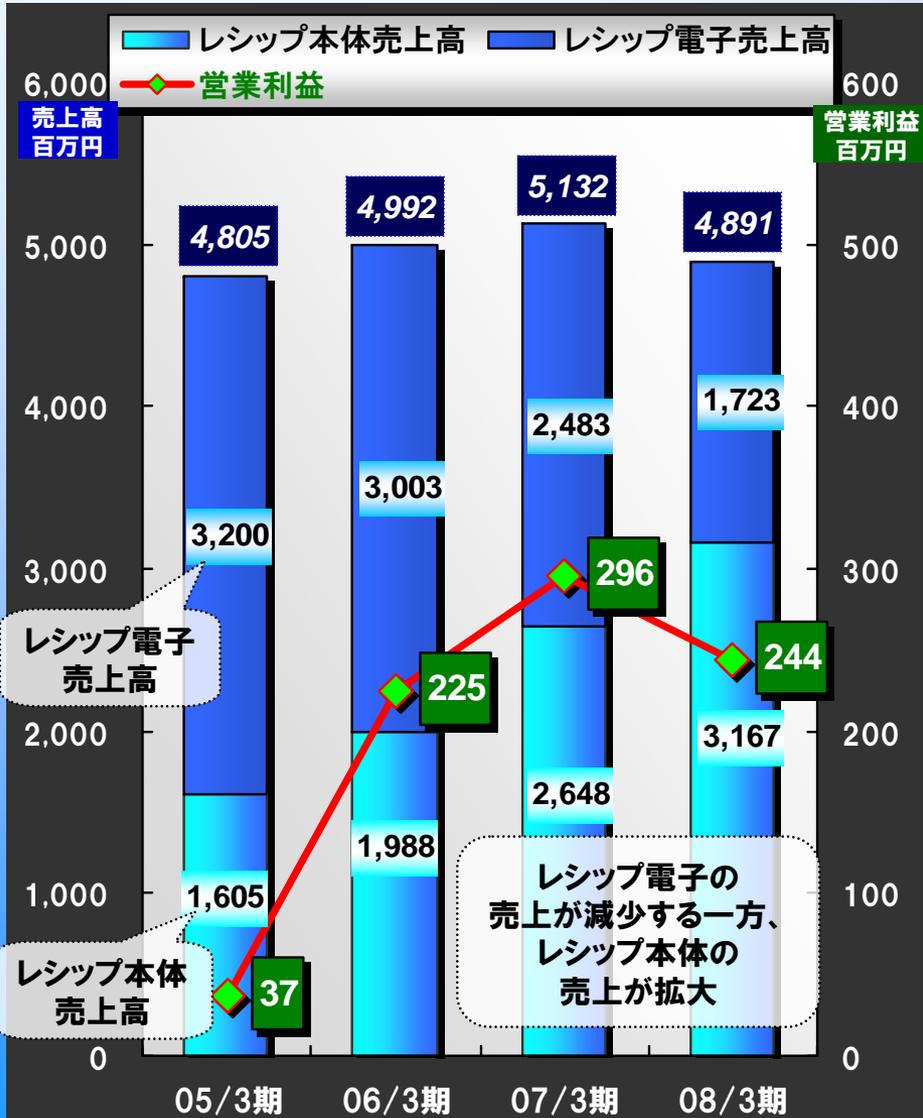
- ☑ 銅の年間使用量:S&D事業:180t 産業機器事業:230t
- ☑ 銅価格は、【前期比 約9%上昇】、【05年3月期比 約2.5倍】

▶ ネオン変圧器の生産をタイで行っている関係上、
パーツ(THB)高が利益を圧迫

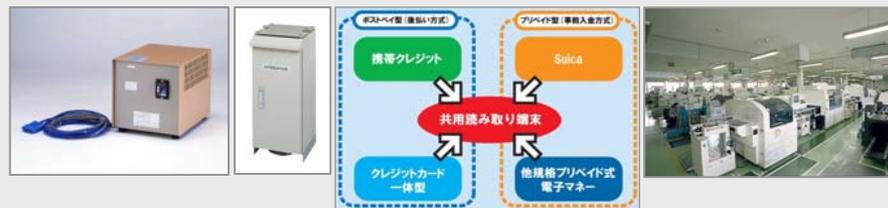
- ☑ THBは、【前期比 約20%上昇】、【05年3月期比 約40%上昇】



▶ 産業機器事業：売上高・営業利益の推移



■ 売上高 : 前期比 ▲2億40百万円 ▲ 4.7%
■ 営業利益: 前期比 ▲52百万円 ▲17.6%



- ▶ 連結子会社レシップ電子のプリント基板実装と小型液晶パネル組立て生産が大きく減少 (前期比 ▲7億59百万円)
- ▶ 銅価格の高騰が利益を圧迫
- ▶ 物販共用読み取り端末が好調に推移 (前期比 +4億26百万円)
 - ☑ 複数規格の電子マネーと携帯クレジットに対応
 - ☑ 07年3月期の第4四半期より、本格納入開始
- ▶ フォークリフト用充電器が堅調に推移 (前期比 +1億31百万円)

■ 連結損益の状況

【連結損益】	2007年3月期 通 期		2008年3月期 通 期			
	金 額 (百万円)	構成比 (%)	金 額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
売 上 高	17,572	100.0	18,511	100.0	+939	
売 上 総 利 益	4,313	24.5	4,600	24.9	+286	
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	3,124	17.7	3,367	18.2	+243	人件費: +52百万円、首都圏ICカード初期導入に伴う費用等: +49百万円、広告宣伝費: +23百万円
営 業 利 益	1,189	6.8	1,232	6.7	+43	
営 業 外 収 益	72	0.4	64	0.3	▲7	
営 業 外 費 用	70	0.4	89	0.5	+19	為替差損: +20百万円
経 常 利 益	1,191	6.8	1,208	6.5	+16	
特 別 利 益	44	0.3	14	0.1	▲29	有価証券売却益: ▲38百万円
特 別 損 失	29	0.2	10	0.0	▲19	前期に計上した連結子会社THAI LECIPの取引先債務保証に係わる和解金支払いが終了: ▲18百万円
当 期 純 利 益	668	3.8	686	3.7	+17	

連結貸借対照表の主な増減要因

【連結貸借対照表】		2007年3月期 通 期		2008年3月期 通 期		
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)
流動資産	8,529	74.0	8,587	74.9	+57	たな卸資産: +265百万円 現預金: ▲69百万円、 その他流動資産: ▲185百万円
固定資産	3,003	26.0	2,882	25.1	▲120	有形固定資産: ▲130百万円
資産合計	11,533	100.0	11,470	100.0	▲62	
流動負債	6,167	53.5	6,100	53.2	▲66	一年以内返済予定長期借入金: +530百万円、未払金およびその他 流動負債: +474百万円、 短期借入金: ▲547百万円、 仕入債務: ▲431百万円
固定負債	957	8.3	374	3.3	▲583	長期借入金: ▲579百万円
負債合計	7,124	61.8	6,475	56.5	▲649	
純資産合計	4,408	38.2	4,995	43.5	+586	利益剰余金: +590百万円
負債・純資産合計	11,533	100.0	11,470	100.0	▲62	

1. 事業セグメントの内容について

2. 2008年3月期 業績概要

▶ 3. 重点課題・事業戦略の進捗状況

4. 2009年3月期 業績見通し

—2007年度～2009年度：中期経営計画—

【 **PG2009** 】

PG=Powerful Growth 「力強い成長力」

新規基幹商品の
育成

海外事業戦略の
再構築

コスト競争力の
強化

■ 最終年度・2009年度に—
売上高：200億円 経常利益：20億円が展望できる
基盤・体制づくりをめざして、取り組みを進める。

● PG 2009 初年度を振り返って

▶ 売上高・経常利益ともに、当初計画を達成し、過去最高を更新

- 売上高 期初計画: 177億70百万円⇒実績: 185億11百万円(計画比: +7億41百万円・+4.2%)
- 経常利益 期初計画: 11億90百万円⇒実績: 12億08百万円(計画比: +18百万円・+1.5%)

	評価	初年度(08年3月期)の主なトピックス
輸送機器	◎	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 首都圏向けの納入拡大、バス用ICカードシステムが大幅増 期待 名古屋市交通局様バス1,000台分の運賃箱を受注 ※2009年3月期下期、2010年3月期納入予定 期待 名古屋地区・名鉄バス様のICカードシステムを受注 ※2009年3月期下期、2010年3月期納入予定
S&D	×	<ul style="list-style-type: none"> × 国内ネオンサイン市場の需要低迷、銅価格、タイ・パーツの高騰 ○ 米国向けネオン変圧器の販売は、着実に増加 × 屋外蛍光灯看板用電子安定器の市場展開は進まず
産業機器	△	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 物販共用読み取り端末の納入拡大 × 連結子会社レシップ電子の、小型液晶パネル組立て生産が上期で終了 プリント基板実装事業も減少

● 業界環境と重点戦略

	業界環境	重点戦略
輸送機器	<ul style="list-style-type: none"> ○国内の路線バスの台数は、横這い推移 ○高齢化社会、省資源対策として、公共交通が見直される。 ○導入広がるバス用ICカードシステム 	<ul style="list-style-type: none"> ■ バス用ICカードシステムの全国展開 ■ OBC(オン・バス・コンピュータ)システムの拡販 ■ 主力製品・バス用運賃箱のシェア拡大 ■ 海外市場の開拓推進
S&D	<ul style="list-style-type: none"> ○国内ネオンサイン市場の縮小 ○銅価格の高騰・タイ・パーツの高騰が利益を圧迫 ○米国市場の販売は、着実に増加 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業構造改革の推進 ■ 新規製品の拡販推進 ■ 米国市場への拡販継続
産業機器	<ul style="list-style-type: none"> ○電子マネー決済サービスの導入広がる ○環境への対応から、電動車の普及拡大 ○受託先の事業再編や生産調整の影響により、EMS事業が低迷 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 物販共用読み取り端末ビジネスへの取り組み ■ 充電器の用途展開 ■ プリント基板実装事業の顧客基盤拡大

● 輸送機器事業の戦略

業界環境と当社の現況

- 国内の路線バスの台数は、58,000台～59,000台と横這い推移
- 高齢化社会、省資源対策として、公共交通が見直される
⇒運行の効率化や、利便性向上に貢献する付加価値の高い製品のニーズが高まる
- 全国に導入広がるバス用ICカードシステム
⇒首都圏に続き、地方都市への納入も拡大



- ① バス用ICカードシステムの全国展開
- ② OBC(オン・バス・コンピュータ)システムの拡販
- ③ 主力製品・バス用運賃箱のシェア拡大
- ④ 海外市場の開拓推進

① 『バス用ICカードシステム』の全国展開

▶ 首都圏に続き、地方都市への納入拡大

- 前期08/3期は、首都圏共通ICカード関連の納入拡大により、大きく伸長。
- 今期09/3期は、前期大幅増の反動が予想されるものの、首都圏以外の地域への納入拡大により、07/3期以上の実績をめざす。

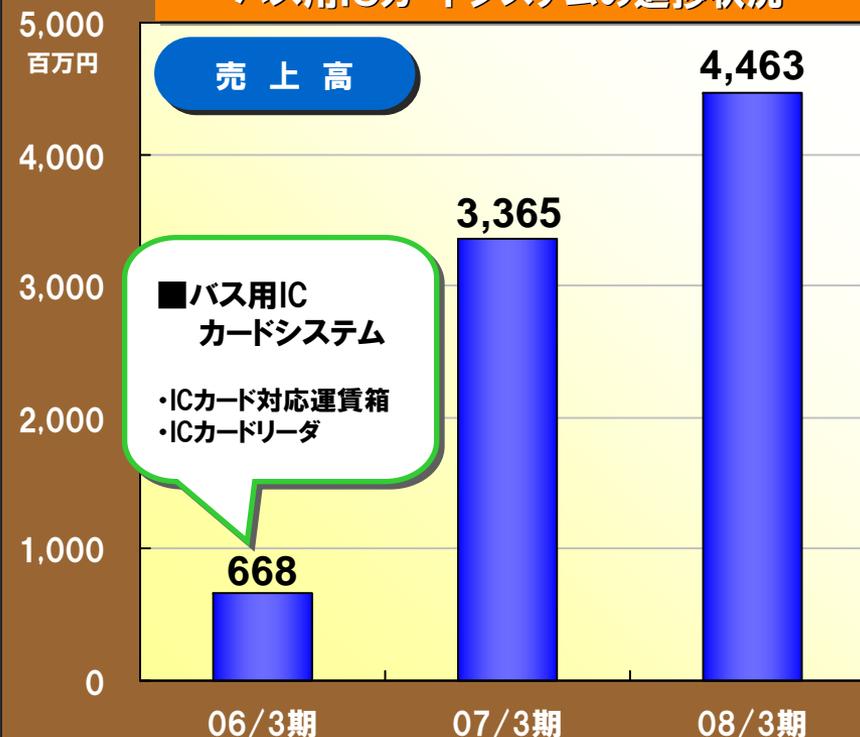


今後も、全国的な普及拡大が予想され、首都圏での実績を追い風に、積極的な拡販を推進。

- ☑ 新たに、名古屋地区・名鉄バス様から受注
⇒09/3期下期から、2010/3期を中心に納入予定



バス用ICカードシステムの進捗状況



② 『OBCシステム(バス用液晶表示器)』の拡販

▶ パソコン機能搭載の液晶表示装置

● 【乗客の利便性向上】

運賃、路線案内、動画広告等、
様々なコンテンツの液晶表示が可能に。



● 【バス会社の業務効率化】

バス車載機器のデータ(運賃データ、表示データ等)を
一元管理、集中制御。
将来的には、車外と車内の機器をオンライン化、リアルタイムでの
データ更新が可能に。

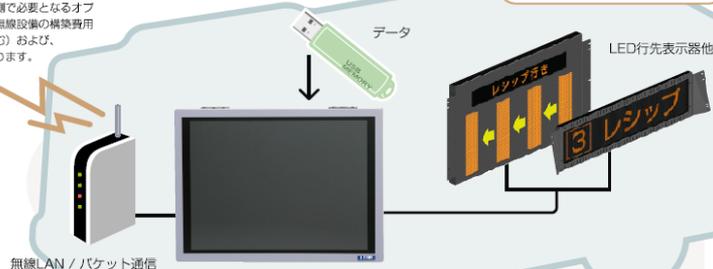


**PC機能を活かした用途開発、
ソリューションのご提案を進め、
ICカードに続く、基幹商品として拡販**

● 地上とのネットワーク化

無線対応の場合、車載側で必要となるオプション費用の他、地上無線設備の構築費用(通信環境調査費用含む)および、通信費用等が必要となります。

● 車載機のシステム化



OBC(オン・バス・コンピュータ)システム



OBCシステムの進捗状況



③ 主力製品・『バス用運賃箱』のシェア・アップ

▶ 薄型運賃箱の投入による差別化戦略

薄型運賃箱



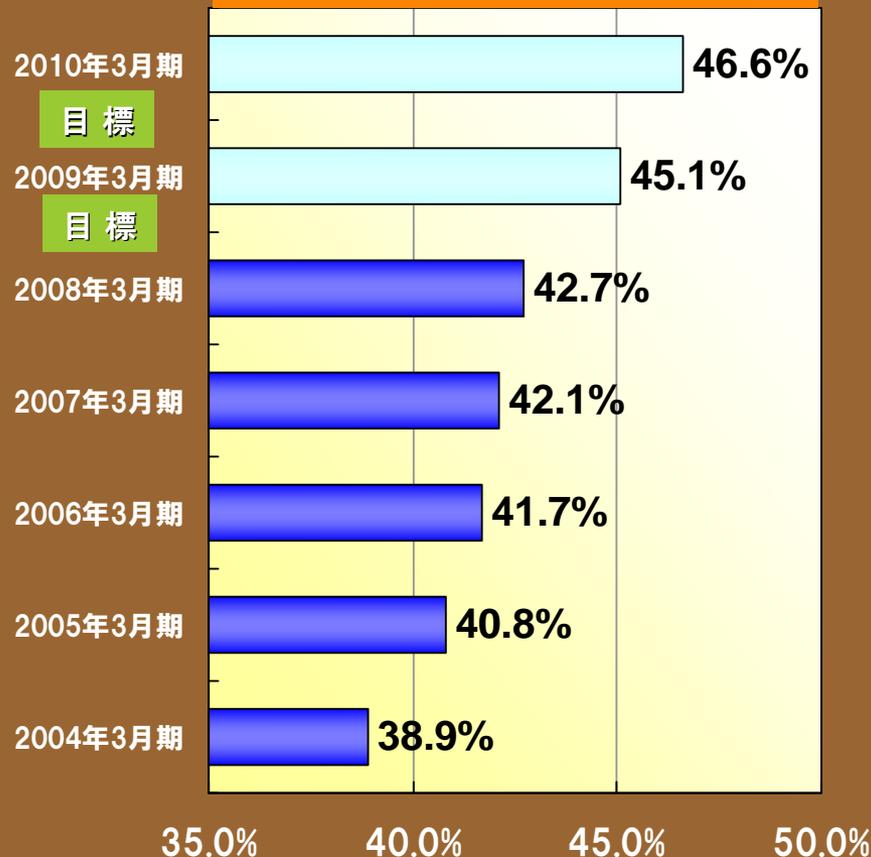
- 従来の機能はそのままに —
20%以上の薄型化・軽量化

更なるシェア拡大に弾み

- ☑ 名古屋市交通局様バス1,000台分の運賃箱を受注
⇒09/3期下期から、2010/3期を中心に納入予定

マーケットシェア

バス用運賃箱のシェア進捗状況



④ バス市場向け製品：『海外市場の開拓』

▶ 米国市場開拓

● バス市場向け製品：

- 現状、アジアの先進地域への販売が中心
- 米国市場での販売実績なし



バス市場製品での、米国市場参入をめざす。

**海外市場への拡販により、
次なる成長ステージへ**

目標：連結海外売上高比率 20%以上

現地でのマーケティング調査開始

OBC(液晶表示器)やLED式行先表示器などの製品で、参入をめざす。



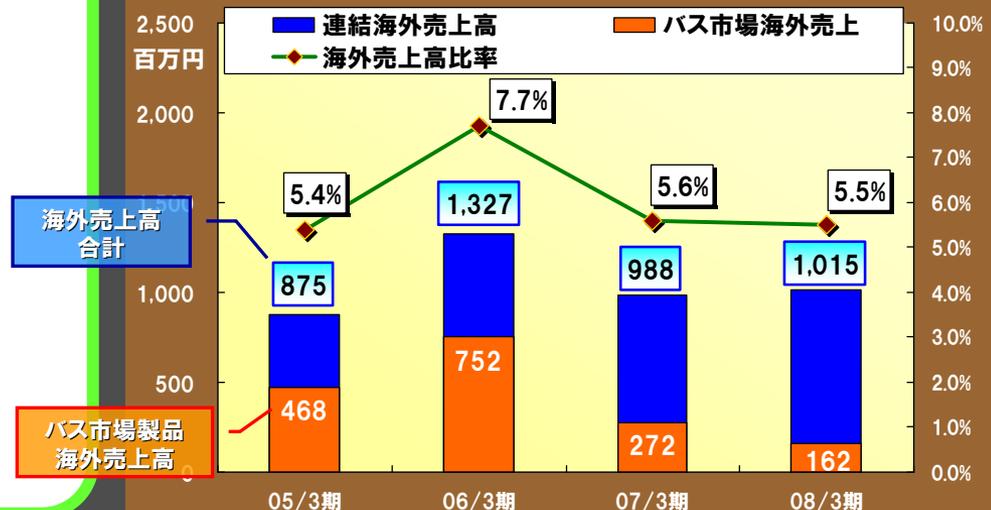
海外営業力の強化

海外営業人材の補強

- **バス市場製品海外売上高：1億62百万円(08/3期実績)**
シンガポール向けAVMS(バス総合運行管理システム)、香港向けICカードリーダーの納入一巡により減少。
⇒米国市場参入に向けた取り組みと併せ、これまで実績のあるアジアの先進地域や、その他の地域へも拡販を推進していく。

- **米国の公共交通系展示会に出展予定**
10月に、米国・サンディエゴで開催の展示会に出展
⇒市場ニーズの調査とともに、米国のバス事業者に、当社製品と、国内での実績をアピール。

海外売上高の推移(通期連結)



S&D事業の戦略

業界環境と当社の現況

- LEDなど、新たなサイン光源の台頭による国内ネオンサイン市場の縮小
- 銅価格の高騰、タイ・パーツの高騰が利益を圧迫
- 米国市場のネオン変圧器販売は、着実に増加



① 事業構造改革の推進:

屋外広告用電源の総合メーカーへの転換を図る

② 新規製品の拡販推進:

【屋外蛍光灯看板用電子安定器】・【ネオン灯具CCL】・【屋外用LED電源】

③ 米国市場への拡販継続

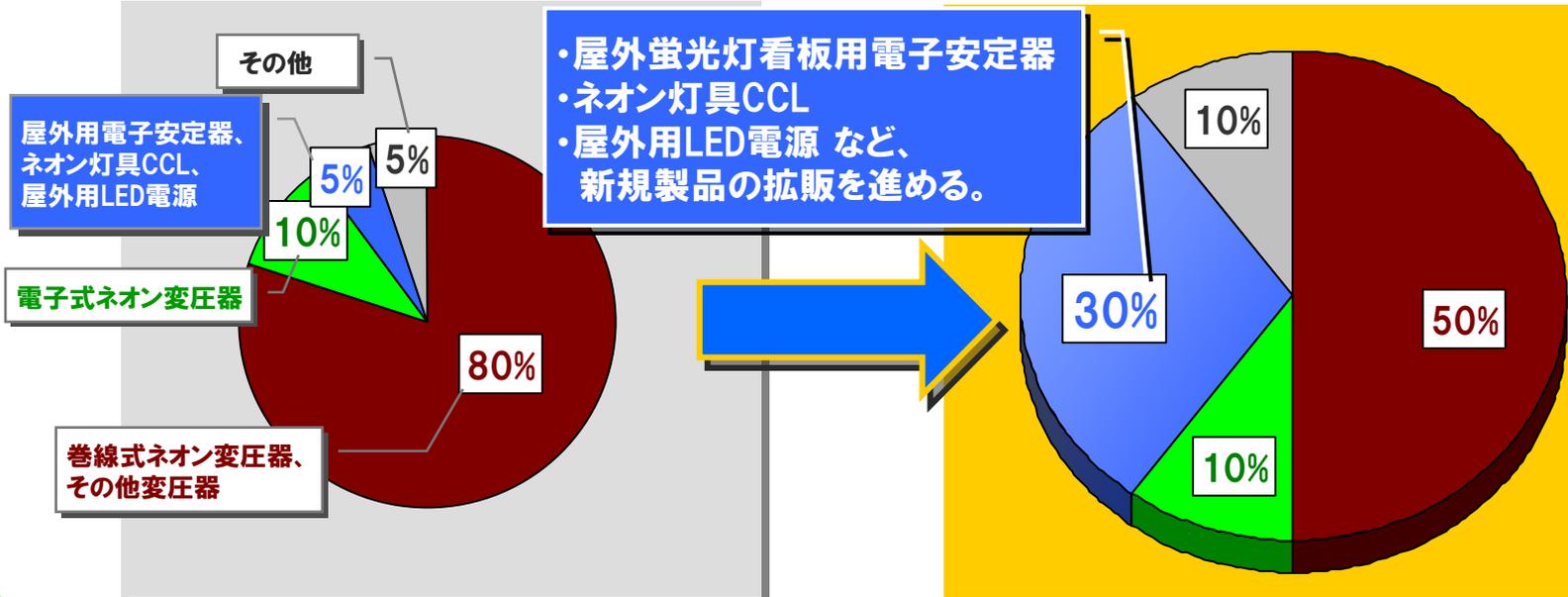
① 『事業構造改革の推進』

▶ 商品ポートフォリオの見直し

- ネオン変圧器中心の商品構成から、『屋外広告用電源の総合メーカー』へ転換
- 生産・調達体制についても、委託生産の拡充など、外部環境の変化に、柔軟かつ機動的に対応可能な体制を構築すべく検討を行っていく。

2008年3月期売上高実績: 15億63百万円

2010年3月期売上高目標: 25億円



② 新規製品の拡販:『屋外蛍光灯看板用電子安定器』

屋外蛍光灯看板用電子安定器

▶ 銅価格高騰への対応

銅の使用量/1台当たり

巻線式ネオン変圧器 (主要部材:銅・鉄)	屋外用電子安定器 (主要部材:電子部品)
約1kg	約0.03kg

▶ 省エネルギー・地球環境対応

⇒ 消費電力量・CO2排出量:20%~30%の削減効果

- 仮に、1年間に出荷される屋外蛍光灯看板用安定器が、すべて電子安定器になったとするとー

⇒ 年間電力削減量: ▲ 1億83百万kWh
年間CO2削減量: ▲ 7万75百t-CO2

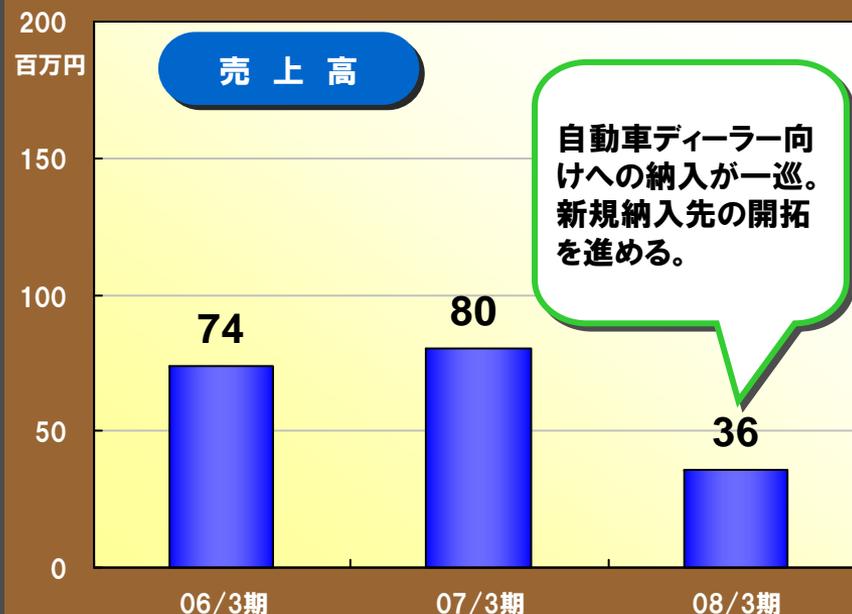
※屋外蛍光灯看板年間出荷台数 250万台、
屋外用電子安定器40W2灯用使用、1日13時間・年間4,745時間点灯した場合で試算

電子安定器導入による、省エネ効果をアピール

☑ コンビニ、ファストフードチェーンなどへの拡販



屋外用電子安定器の進捗状況



② 新規製品の拡販:『ネオン灯具CCL』、『屋外用LED電源』

ネオン灯具CCL

ネオンの新たな用途を提案

- 建築・施設照明向けライティングシステムとしてネオン灯具(CCL=Cold Cathode Lamp)を製品化
- 電源・光源・調光コントローラをパッケージ化し、設置も運用も容易に



店舗総合見本市『JAPAN SHOP2008』当社展示ブース



東京・銀座:
MIKIMOTO Ginza2ビル

東京・銀座:
マロニエゲート

屋外用LED電源

今後も拡大が見込まれるLED市場を開拓

- これまでの電源開発技術、ネオン変圧器の充填技術を活かし、屋外用LED電源を開発
- 他社製品との差別化:樹脂で充填を行うことにより、優れた防水性・耐久性を実現

屋外用LED電源



『屋外広告用電源の総合メーカー』への転換をめざす。

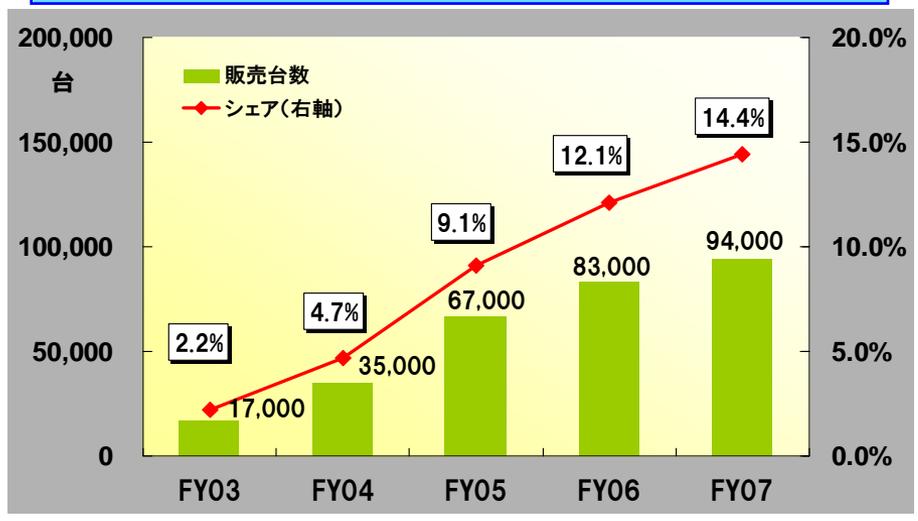
③ 『米国ネオン変圧器市場での拡販継続』

▶ 巨大市場 米国での拡販推進

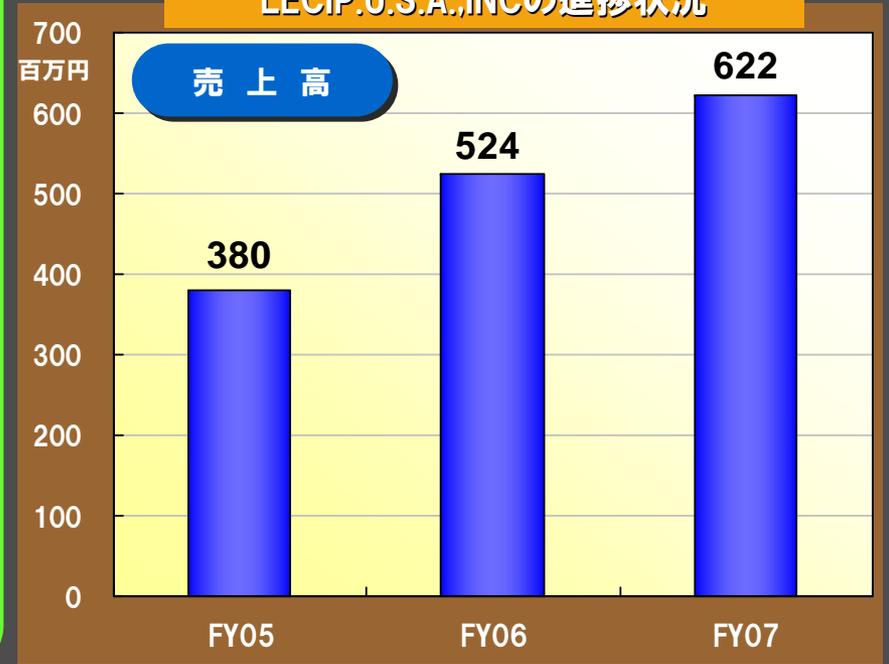
- 国内の約10倍の市場規模
- 品質の高さが評価され、着実に販売拡大
- 電子式商品を積極展開、商品ラインアップ充実



米国市場：巻線式ネオン変圧器の販売台数と、シェアの進捗



LECIP.U.S.A.,INCの進捗状況



産業機器事業の戦略

業界環境と当社の現況

- 店舗での電子マネー決済サービス導入広がる
⇒物販共用読み取り端末のニーズ拡大
- 環境への対応から、電動車の普及拡大
⇒バッテリー式フォークリフト用充電器の需要増
- 受託先の事業再編や生産調整の影響により、連結子会社レシップ電子のEMS事業が低迷



- ① 物販共用読み取り端末ビジネスへの取り組み
- ② 充電器の用途開拓
- ③ レシップ電子におけるプリント基板実装事業の顧客基盤拡大

① 『物販共用読み取り端末』ビジネスへの取り組み

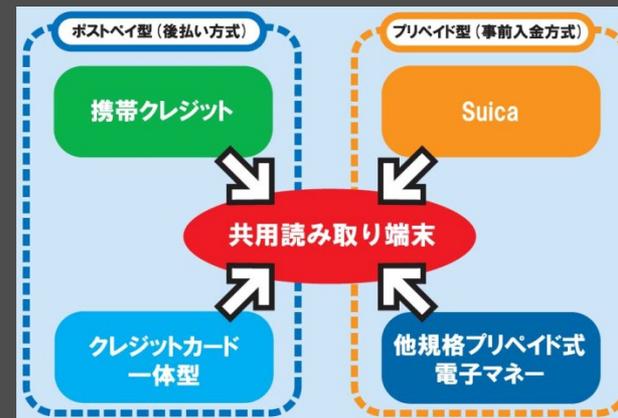
▶ 物販分野で広がる電子マネー

- 従来は、電子マネーの運営会社によって、決済端末が異なる。
- 共用読み取り端末のニーズ拡大。
- これまでの交通系ICカード、香港・物販用カードリーダーの納入実績。



Suica電子マネー、他規格電子マネー
共用読み取り端末の、共同開発パートナーに。

**電子決済読み取り端末の
用途拡大にも、柔軟に対応**



物販共用読み取り端末の進捗状況

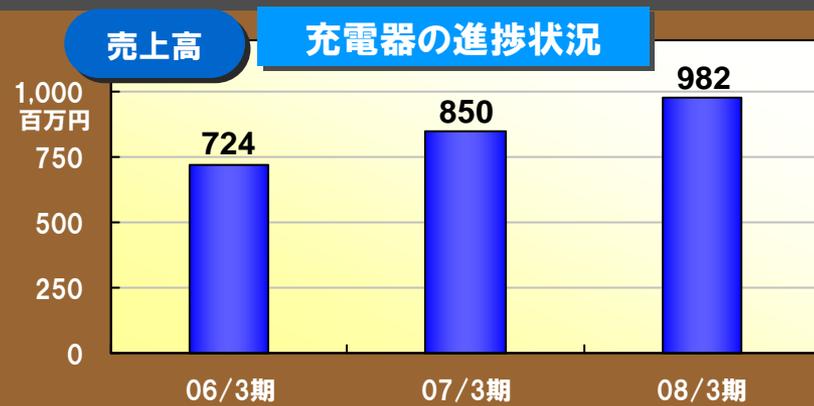


② 『充電器』の用途拡大

▶ バッテリー式フォークリフト用充電器で、
トップシェアを獲得



↓
小型充電器の分野で、
他への用途展開を検討

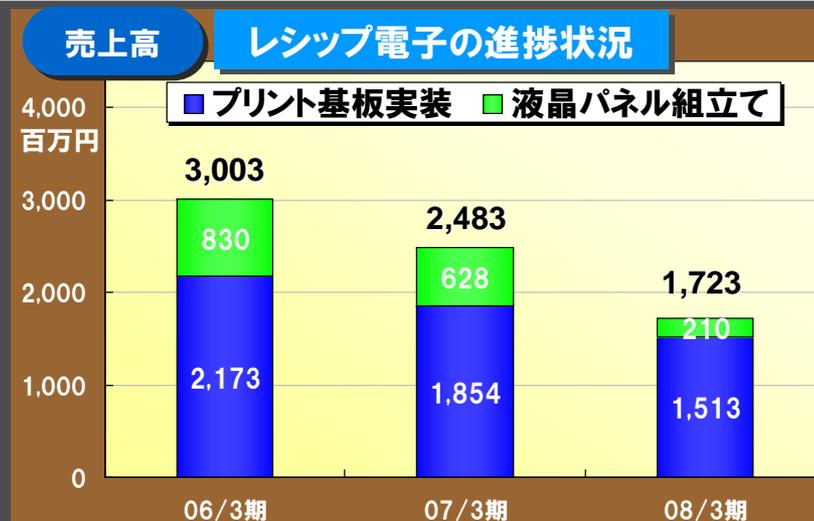


③ 『プリント基板実装事業』の顧客基盤拡大

▶ 受託先の事業再編、生産調整の影響

- 小型液晶パネル組立て生産は、08/3期上期で終了

↓
新たな顧客基盤の開拓



1. 事業セグメントの内容について

2. 2008年3月期 業績概要

3. 重点課題・事業戦略の進捗状況

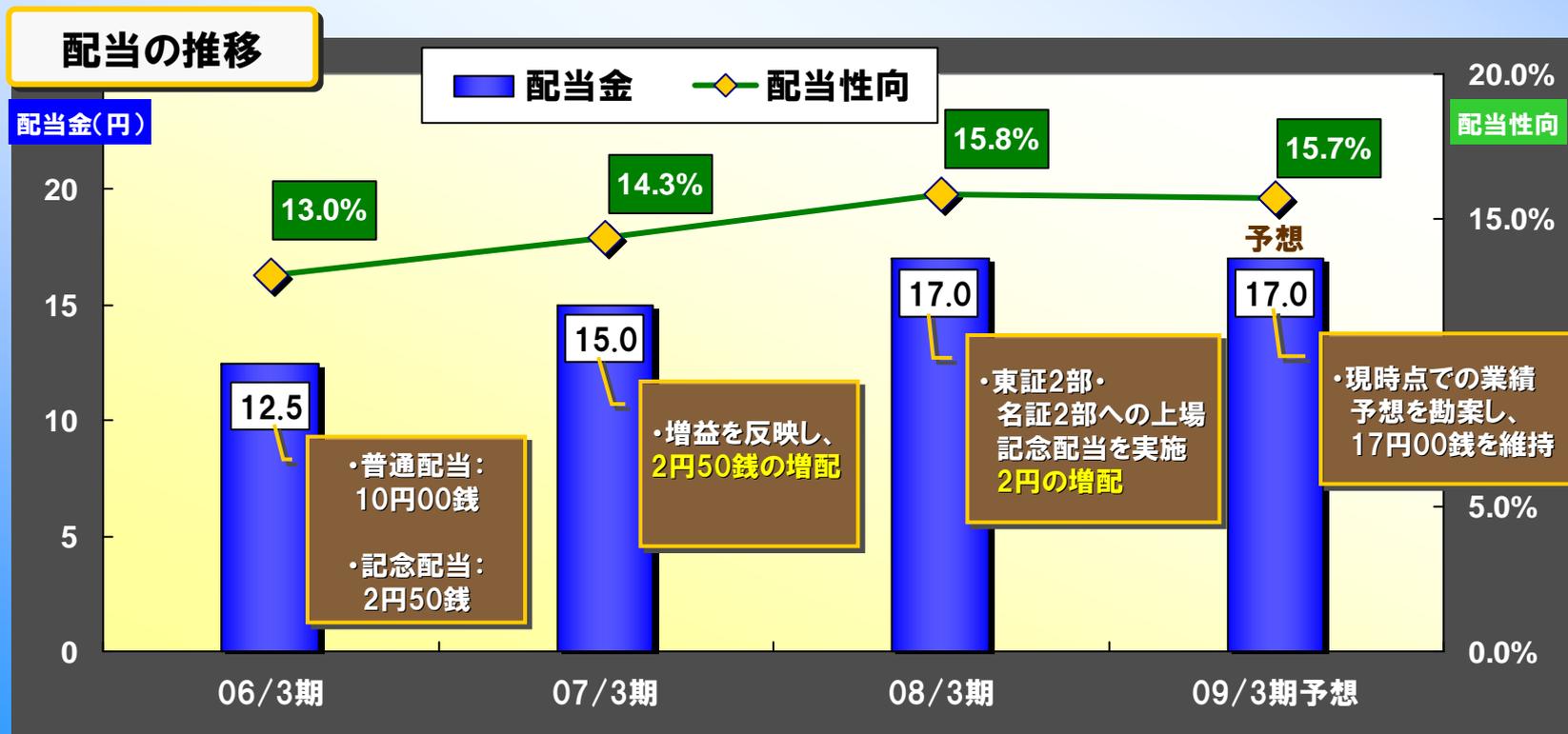
▶ 4. 2009年3月期 業績見通し

2009年3月期 連結業績予想

連結業績予想	2008年3月期 実績 (百万円)	構成比 (%)	2009年3月期 業績予想 (百万円)	構成比 (%)	前期比 増減額 (百万円)	前期比 増減率 (%)
売上高	18,511	100.0	17,570	100.0	▲941	▲5.1
営業利益	1,232	6.7	1,230	7.0	▲2	▲0.2
経常利益	1,208	6.5	1,220	6.9	+11	+1.0
当期純利益	686	3.7	690	3.9	+3	+0.6
E P S (円)	107円38銭	—	107円97銭	—	+59銭	+0.5

輸送機器事業		<ul style="list-style-type: none"> バス用ICカードシステムが、前期大幅増の反動減 期待 地方都市におけるICカードシステムの普及拡大
S&D事業		<ul style="list-style-type: none"> 銅価格は、引き続き、高止まり懸念 新規製品の拡販、米国市場での拡販 タイ・パーツの高騰一服
産業機器事業		<ul style="list-style-type: none"> 物販共用読み取り端末の減少を予想 レシップ電子・小型液晶パネル組立て生産が剥落

- 08/3期の配当は、15円から17円へと、**2円増配**
⇒昨年12月の、東証2部・名証2部への上場を記念し、普通配当15円に、**記念配当2円**を加える
- 09/3期の配当予想は、現時点での業績予想を勘案し、17円を維持
- 継続的かつ安定的な利益還元に努める

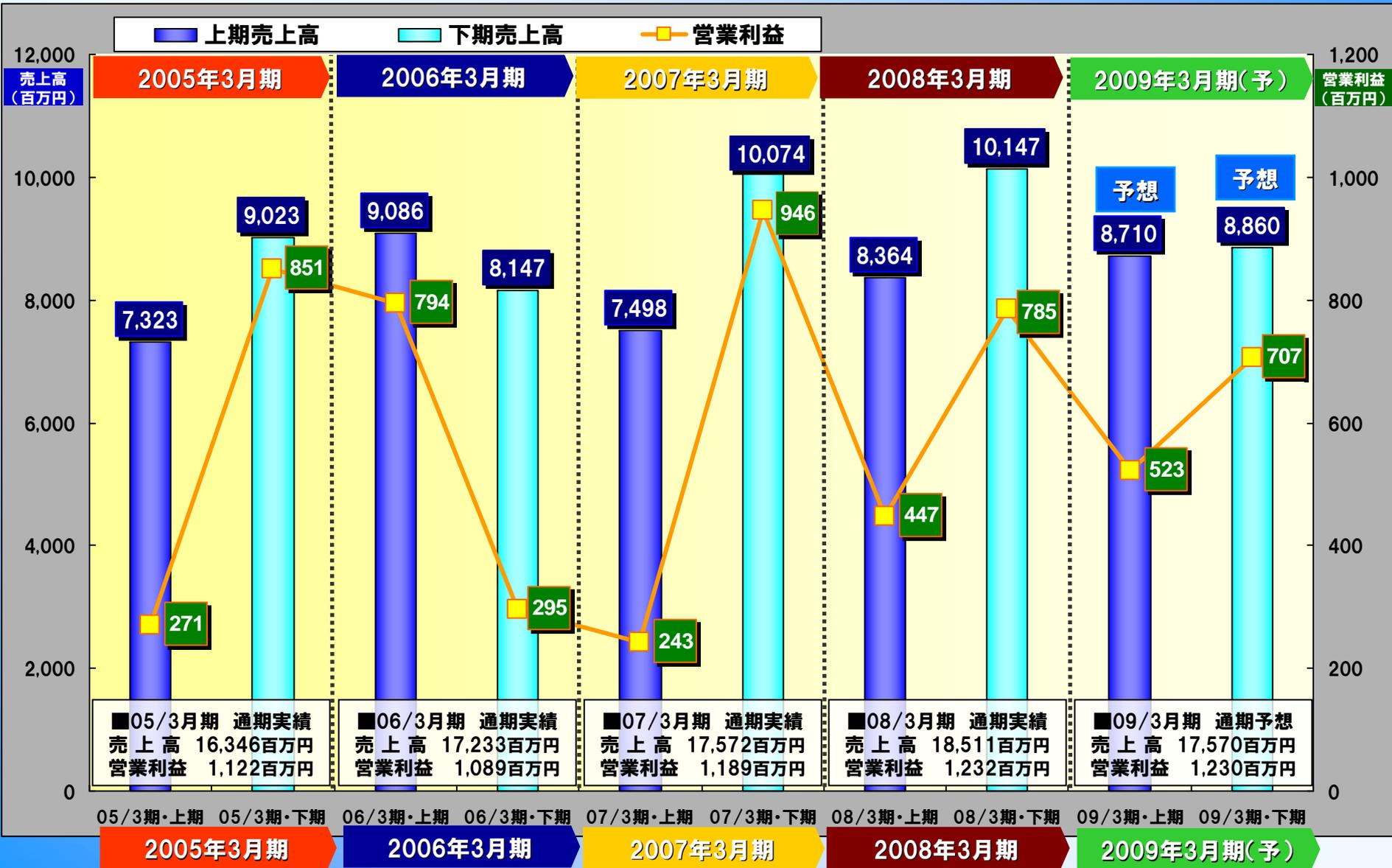


【ご参考】: 主な経営指標の推移

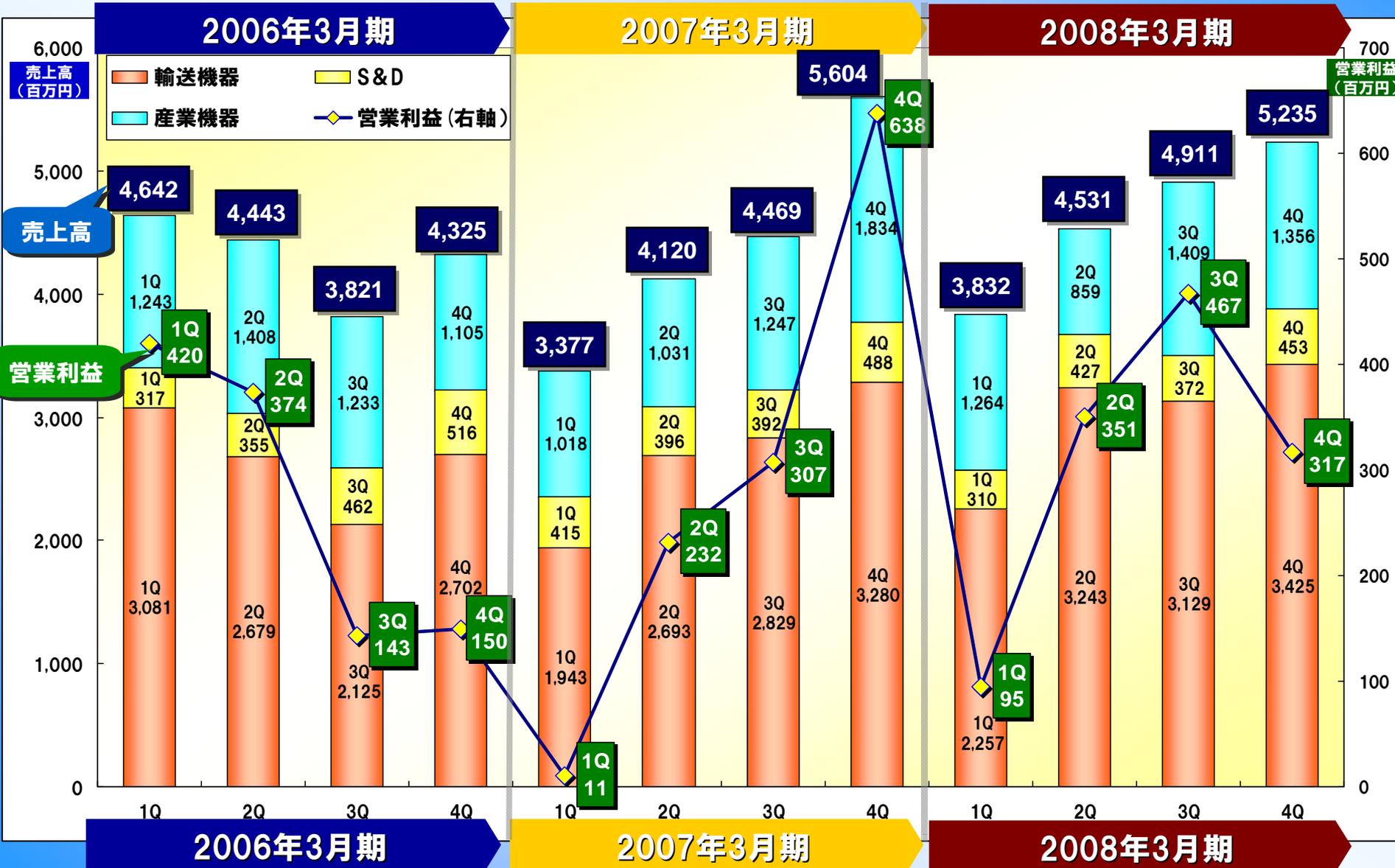
主な経営指標 の推移	2004年3月期	2005年3月期	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期 予想
売上高(百万円)	15,717	16,346	17,233	17,572	18,511	17,570
営業利益(百万円)	400	1,122	1,089	1,189	1,232	1,230
営業利益率(%)	2.5	6.9	6.3	6.8	6.7	7.0
経常利益(百万円)	390	1,124	1,086	1,191	1,208	1,220
経常利益率(%)	2.5	6.9	6.3	6.8	6.5	6.9
当期純利益(百万円)	▲100	654	622	668	686	690
当期純利益率(%)	▲0.6	4.0	3.6	3.8	3.7	3.9
総資産(百万円)	10,267	10,529	10,512	11,533	11,470	—
純資産(百万円)	1,888	2,519	3,895	4,408	4,995	—
自己資本比率(%)	18.4	23.9	37.1	38.2	43.5	—
EPS(円)	▲18.05	107.70	96.29	104.68	107.38	107.97
ROE(%)	—	29.7	19.4	16.1	14.6	—
BPS(円)	338.36	441.66	599.65	689.82	781.66	—

※2004年3月期につきましては、退職給付制度改革を実施し、確定拠出年金制度への全面移行に伴い、退職給付制度変更損失397百万円を計上したため、当期純損失となっております。

【ご参考】：上期・下期別の業績推移



【ご参考】：四半期ごとの業績推移



LECIP

レシップ株式会社

【資料お問合せ先】

レシップ株式会社

IR担当役員：常務取締役管理本部長 山口 芳典

電話番号：(058)323-7647

IR担当者：総務部兼経営管理部 野村 武史

電話番号：(058)324-3121

【将来予測について】

本資料のうち業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。